

見どころ“まんさい” 映画「のぼうの城」

映画「のぼうの城」の公開を控え、10月20日、産業文化会館でプレミアム試写会が行われました。

上映前に行われた舞台あいさつでは、主演の野村萬齋さんと原作者の和田竜さんが、約800人の来場者に向けて映画をPRしました。「見どころは“まんさい”です。ぜひ、エンドロールまで見てください」とユーモアたっぷりに語る野村さんと、「行田で試写会ができて感無量」と取材で行田を訪れたときのことを振り返る和田さん。2人の映画への熱い思いを受け、観客は行田を舞台にした迫力満点の映画を、大画面で堪能していました。



伝統の味を全国へ発信

9月21日、市役所で「いにしへの行田枝豆倶楽部」設立趣意書締結式が行われました。

同倶楽部は、本市、生産者の会「行田豆吉クラブ」、埼玉県、ほくさい農業協同組合、イオンリテール株式会社が本市の伝統野菜「行田在来枝豆」の生産・流通・販売に一体となって取り組む協議会です。同倶楽部が設立されたことにより、伝統的な食文化が守られるとともに、行田の味が全国に発信され、地域活性化につながることを期待されます。

こぜにちゃん、フラベえ、うきしろちゃんに
ゆるキャラ観光大使を委嘱

10月20日、産業文化会館で行田市ゆるキャラ観光大使委嘱式が行われ、「こぜにちゃん」と「フラベえ」、そしてNPO法人魅力創造倶楽部が忍城をイメージして制作した「うきしろちゃん」の3キャラクターに委嘱状が渡されました。

今後、さまざまなイベントに参加し、本市の広報活動や観光振興を積極的に行っていくキャラクターたちは、本市の発展に欠かせない存在となっていくことでしょう。



ラッピングバスが出発

10月1日、市内循環バスターミナルで市内循環バスラッピングバス出発式が行われました。

循環バスをラッピングした絵は、「故郷ぎょうだ」をイメージした絵画コンクールで最優秀賞や優秀賞に輝いたもの。同賞を受賞した児童・生徒5人はテープカットを行い、自分の絵が描かれたバスが出発していくのをうれしそうに見送っていました。



古代蓮会館の入館者が60万人を達成



9月28日、古代蓮会館の入館者が60万人を達成しました。記念すべき60万人目の入館者となったのは、東京都世田谷区に住む池田由利子さん。工藤市長から入館60万人達成記念の認定証と同館に無料で入館できる招待券などが送られました。池田さんは「突然のことでびっくりしています。古代蓮がたくさん咲くころにまた来てみたいです」と感激した様子で喜びを語りました。

舞妓さん、おこしやす

10月10日、京都から舞妓の^{まいこ}美恵菜さんと^{みえな}小凜さんが郷土博物館を訪れました。

2人は同館内で行田の歴史や文化を学んだ後、大勢の観客の前で、祇園小唄などに合わせてみやびやかな座敷舞「京舞」を披露。はんなりとした舞妓さんの一挙一動を逃すまいと、多くの人が夢中でシャッターを切りました。

京都の雰囲気や漂う、いつもとは一味違った忍城の風景に、誰もが魅了されていました。



盛りだくさんのイベントを満喫

9月22日、市民プール脇広場で(社)行田青年会議所主催の「e(いい)まち行田・未来フェスタ」が行われました。

この催しは、同会議所創立50周年を記念して開催されたもので、自転車発電コーナーやエアブラシを使ったペイント体験をはじめ、今井絵理子さん(SPEED)のトークショーやミニライブ、大八木淳史さん(ラグビー元日本代表)のトークショーが行われました。

また、小学生を対象にしたタグラグビー体験も行われるなど、来場者は盛りだくさんのイベントを満喫していました。



災害に備えて

9月24日、佐間地内の諏訪山橋で、行田土木防災協議会会員による応急対策業務の実働訓練が行われました。

この訓練は、「災害時における応急対策業務に関する協定」を締結した同協議会が実施したもので、震度5強以上の地震が発生したことを想定し、生活道路や橋の被災状況の確認や点検を行いました。

避難経路の確保や救急車両の通行確保など、万一の災害に備えたこの訓練は、行田の安心・安全につながることでしょう。

